



TEKAR™
13S スプロケット・セット

警告!

自転車の作業を行うときは常に保護用の手袋と眼鏡を着用してください。



EKAR 13s スプロケット・セット

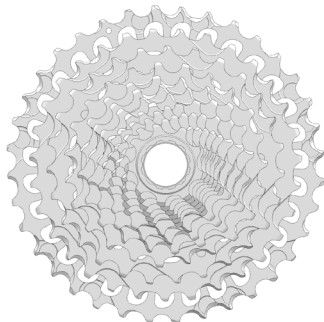


このテクニカル・マニュアルはプロ・メカニックが使用するために制作しています。

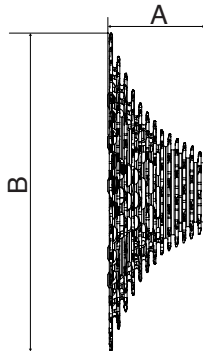
自転車を組み立てるプロ・メカニックの資格のない人は、決して独りで構成部品を取り付けたり、調整作業を行ったりしないでください。不適切な作業を行うと、構成部品の故障の原因になり、事故や身体損傷、死亡を引き起こす可能性があります。

本説明書の目的は、構成部品を使用するための手順を説明することです。そのため、説明書にある図は実際の製品と異なる場合があります。

1 - 技術仕様

最小スプロケット	9	
最大スプロケット	44	
締め付けトルク	Z9: 45 Nm	
	Z10: 40 Nm	

2-適合性

チェーン	13s	
ロックリング	組み込み式	
	9-36 / 9-42	
	10-44	

歯数構成	A	B
9-36	45	Ø 147
9-42	45	Ø 171
10-44	45	Ø 179



警告!

上の表に指示された以外の組み合わせを行うと、ドライブトレインの誤動作を引き起こす可能性があります、事故や身体損傷、死亡の原因になることがあります。

3 - フレームとのインターフェース

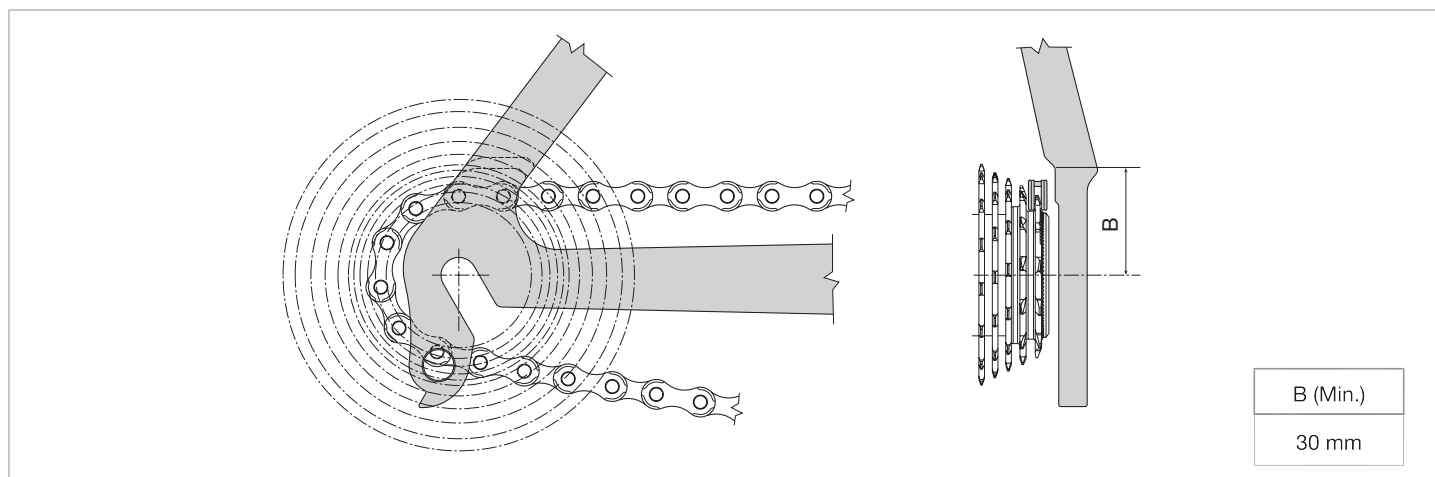


図1

ケーブルの動きに連動したケージのストロークは、すべて出荷時にチェックされています。

リア・ディレイラー・ハンガーから最小スプロケットまでの距離は、そのストロークに大きく影響を与えます。そのため、その距離が図に示された公差の範囲に収まっていることを確認します (図2)。

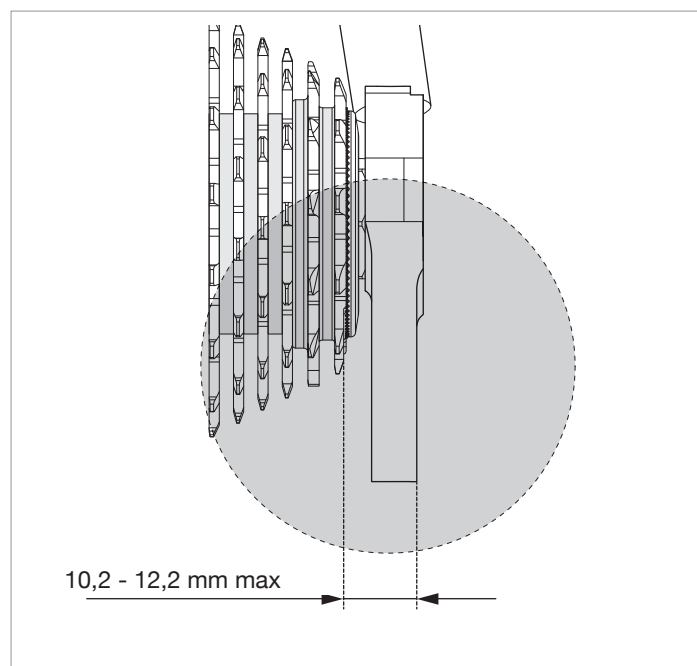


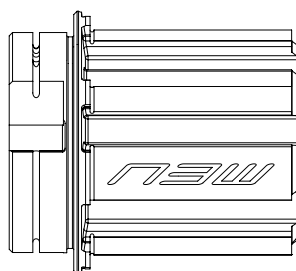
図2

4 - 13s スプロケット・セットの取り付け



警告! 適合性
スプロケット・セットは、必ずN3Wカンパニ
ヨーロFWボディーに取り付けてください (図1)。

OK!



NO!

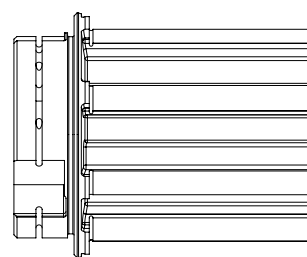


図1

・ 大きい方のスプロケット・アッセンブルをFWボディーに、両方のスプラインを合わせながら差し込みます (図2)。
FWボディーには2つの左右非対称のスプラインがあり (図2)、一か所しか合わせる部分がないため、スプロケットは自然と定位置に収まります。

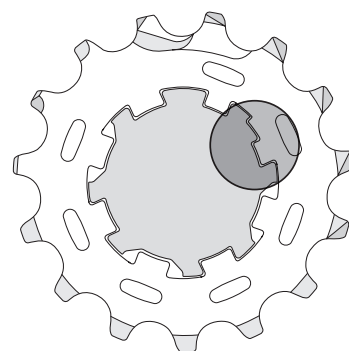
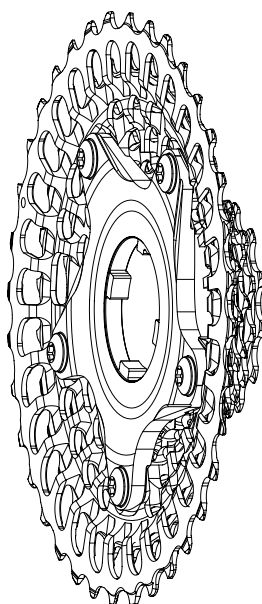
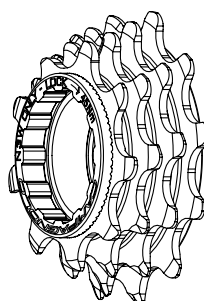


図2

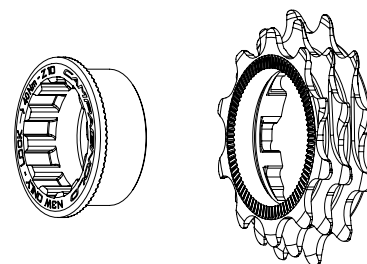
・ 小さい方のスプロケット・アッセンブルをFWボディーに差し込みます (図3)。



9Tから始まるスプロケット・セットは、小さい方のスプロケット・アッセンブルの中にロックリングが組み込まれています (図3)。



9-36
9-42



10-44

図3

・トルク・レンチ (D - 図4) とカンパニョーロ® 工具 UT-BB080 (B - 図4) を使用し、ロックリング (G - 図4) をFWボディーに締め込みます。その際の締め付けトルクは、9Tから始まるスプロケット・セットの場合は45 Nm (398 in.lbs) です。また、10Tから始まるスプロケット・セットの場合は40 Nm (354 in.lbs) です (双方ともロックリングに異なるトルクが刻印されている場合は、それに従ってください)。



警告!

ロックリングと最小のスプロケット (10T) には独自の刻みがあり、それぞれ13s用だけが適合します。それ以外の組み合わせを行うと、事故や身体損傷、死亡の原因になることがあります。

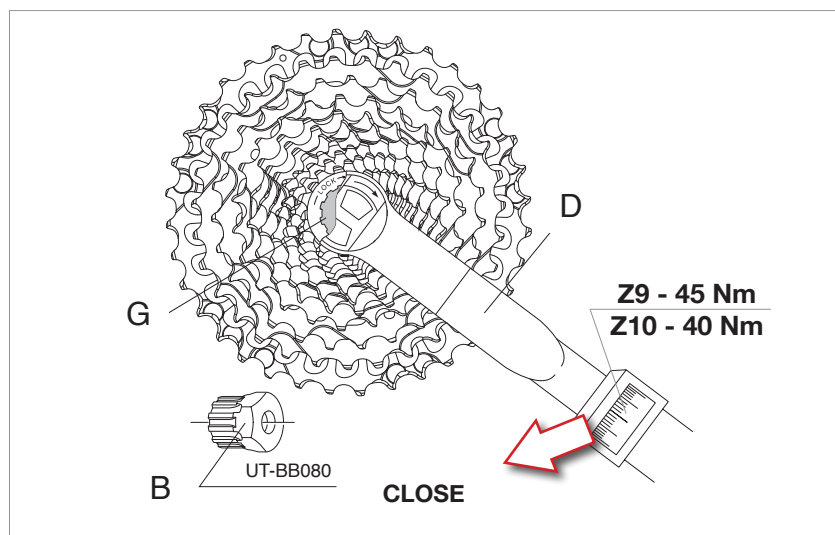


図4

5 - 13s スプロケット・セットの取り外し

・カンパニョーロ® 工具 UT BB080 (B - 図5) と24 mm オープンレンチ (E - 図5)、カンパニョーロ® 工具 UT-CS060 (X - 図5)、またはそれに相当する工具を使用し、ロックリング (G - 図5) を取り外します。

・FWボディーからスプロケット・セットを取り外します。

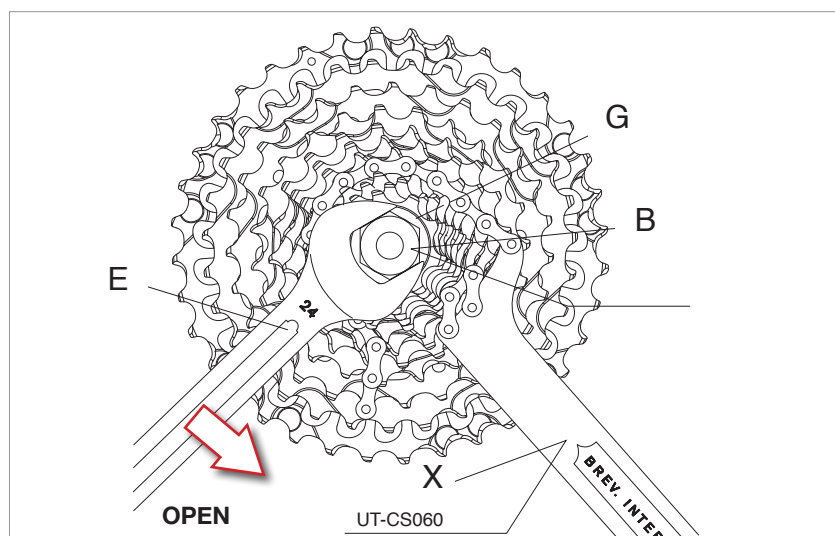


図5



必ず、カンパニョーロ® 13スピード スプロケット・セットを使用してください。

6 - メンテナンス

構成部品の寿命は、使用状況、メンテナンスの頻度とその内容に左右されます。そのため、構成部品を良い状態に保つには、洗浄と注油を頻繁に行う必要があります。特に過酷な状況で使用した場合(例えば、洗車後や、雨天、埃や泥の中を走った後)には必ず行ってください。

- ・ 土や泥は自転車とその構成部品を著しく損傷させます。そのような状況で使用した場合は、徹底的に洗浄し、汚れを取って、乾かしてください。
 - ・ 圧力を掛けた水を吹き付けることは、絶対にしないでください。圧力を掛けた水は、たとえ小さなガーデン用ホースのノズルからでも、カンパニョーロ® 構成部品のシーンを抜けて中に浸水し、修理不可能な損傷を与えることがあります。自転車とカンパニョーロ® 構成部品は、水と自然な石鹸ですみずみまで拭き、洗浄してください。
- 柔らかい布で拭き、乾燥させます。研磨剤や金属スポンジは絶対に使用しないでください。



自転車を清掃する際は、環境に優しく、人や環境に対して安全な、腐食性物質を含まない中性の製品を使用してください。

- ・ 柔らかい布でドライブトレイン全体を拭き、乾燥させてください。研磨用スポンジや金属製の研磨パッドは決して使用しないでください。
- ・ 注油の前には、ドライブトレイン (システム全体、スプロケット・セット、チェーンリング、リアディレイラー・プーリー) を、専用のデグリーサーや洗剤を付けたブラシや布を使用し、汚れを落とします。埃や泥が付いている場合は、専用のプラスチック工具を使用し、完全に取り除きます。
- ・ 目的に合った潤滑油を使用し、慎重に構成部品に注油します。



警告!

低品質の潤滑油や不適切な潤滑油を使用すると、チェーンが損傷し、システムが過度に摩耗したり、損傷することがあります。損傷を受けたドライブ・システムは適正に動作しないことがあり、事故や身体損傷、死亡の原因になることがあります。

- ・ 注油後は、クランクを回してすべてのスプロケット、チェーンリングに変速し、ドライブトレイン全体に正しく潤滑剤をなじませます。
- ・ 自転車や床に付いた余分な潤滑剤を十分に拭き取ります



警告!

リム、ブレーキ・シュー、ディスク、ブレーキ・パッドに潤滑油が付着すると、自転車の制動力が低下したり、場合によっては制動力が無くなり、事故や身体損傷、死亡の原因になることがあります。



警告!

塩分の多い環境 (冬の道路や海に近い道路) は、多くの自転車部品を腐食させる原因になります。損傷や動作不良、事故を避けるためにも、きれいに洗浄して汚れを落とし、乾燥させた後、対象となるすべての構成部品に注油してください。